

## 研究活動を通じて

菱田 直樹

愛媛大学大学院 農学研究科

この度は、「薫風」への寄稿の機会を頂き誠にありがとうございます。私は、大学3回生の10月に現在の研究室に配属となり、これまで約3年間研究活動に勤しんでまいりました。簡単ではありますが、これまでの研究活動の経験などについて紹介していきたいと思います。

私は当初、魚類や鳥類などに含まれるPCB(ポリ塩化ビフェニル)などを測定しその挙動を調べる研究室への配属を希望しておりました。しかし授業等で先生方の話を伺う中で、室内の化学物質による空気汚染により困っている人が存在していると知りました。人は1日の約90%の時間を室内で過ごすにも関わらず、室内の空気質はあまり着目されていない事に違和感を覚え、研究してみたいと感じ、現在の研究室へ飛び込みました。

研究室に配属される前の2年間半は、今思い返すとこれと言って何かしたという事はありませんでした。趣味を楽しみ、好きな時に好きな事をして過ごす生活をしていました。

しかし研究室に配属となり、コアタイムは平日の朝9時半から17時半、週に1回の朝8時半からの研究報告、月に1回の英語論文紹介、実験の進捗具合では土日にも実験など、明らかに生活が激変しました。当初は、生活リズムの変化から体がついて行かず、寝不足などで昼間に寝てしまうこともしばしばで、先輩方についていくのに必死でしたが、徐々に慣れていきました。

研究活動では、これまで使用した事が無い実験器具ばかりであったため、何度も稚拙なミスを繰り返しました。測定機器にGC-MSを使用していましたが、ただシーケンスを打ち込むだけで仕組みなどは全く理解していませんでした。また、学部生の頃は先生に言われた事をただやるだけであり、その実験

を行う意味や、そもそも研究の背景などを考えていませんでした。そのせいで、深く考察する事が出来ませんでした。しかし修士課程に入ると、特に先生に実験の指示等をされる事が無くなり、その代わりに結果を求められるようになりました。実験を多くこなす事は当たり前であり、得られた結果は何を示しているのか、次はどのような条件で実験するべきなのか、どのような結果が必要なのかを考え、結果を予測して実験を行うようになりました。これによって、研究の背景や実験の意味、結果を考察出来る様になりました。修士課程は学部生時代と比較して、非常に密度の高い時間を過ごすことが出来ました。

今現在、結果が出ない等、研究の事で悩んでいる学生さんは多くいると思います。その様な際は実験計画を作り実験をしてみてください。これまで気付かなかった事に気付けるかもしれません。また就活で悩んでいる人もいるかと思っています。実際私もそうでしたが、研究活動を頑張っって取り組んだおかげで、面接ではほとんどの質問に答える事が出来ました。就活の近道は面接でのテクニックなどではなく、研究活動を頑張り研究に自信を持ち、堂々とする事だと本当に思います。色々大変だと思いますが、研究活動を頑張っってください。皆様のご活躍を心より期待しております。